

# 令和4年度 事業概況報告

社会福祉法人 白鳥会

## I. はじめに

令和五年を迎え、新型コロナウイルス感染症は法律上、2類から5類相当になり、インフルエンザ並みになりますが、国民感情としてはコロナ感染症から未だ抜け出せない状況にあり、恐々としております。

今年度は、特養ホームや保育所等の社会福祉施設は医療従事者等の就業支援の重要な施設として運営を義務づけられ、日々特に「密集」、「密接」業務が避けがたい保育園・特養ホームでの感染予防に苦心しながら、運営を続けており、保育士や介護士等の職員は、気配りしながら業務に追われております。

利用されている高齢者の方には、家族との接見制限措置をとっておりましたので、利用者の大切な家族は彼らの心のよりどころであり、身内と会ったり、話をしたり、体を動かすことは生きる力の火を燃やす大切な行為であります。一方、保育園でもほとんど感染症対策で通常の行事は開催できなくなり、子どもにとっては不本意であり、職員も満足のできない保育が続いておりました。

さて、一年を通じて、職員の採用難になっており、我々も介護士・保育士の採用についてユーチューブに動画サイトを設け、リクルート活動を日々しておりますが、人材確保については大いに難儀しており、法人間同士の協調や各養成校への求人要請、そして政府へ民間業者の人材紹介や派遣に係る価格の適正化について、政府の査定基準に基づいての収入が決められている以上、申し入れを強力に行っていく必要があります。

政府は異次元の少子化対策について項目を設けて、国民に知らしめておりますが、その具体化は進んでおりませんし、財源の目途もたっておりません。しかし、少子化は我が国経済・安全保障に多大な影響を与え、放置すれば国力衰退の坂を駆け下ることになりますので、素早く実施していただきたいと願うばかりであります。

特養ホーム「あおやま」は、世間では、介護士等の人材確保が至難と言われる中で、正規・非正規 併せて配置する要員が曲がりなりにも確保できていることは、運のいいことでありますが、一年間通して退職者数十人にもなり、職員の補充に今年も追われ通しの一年間でありました。しかし、3月31日末現在、特養ホームの利用者は65名（70名定員）・短期利用者15.4名、ディサービス定員30名〔25名一日平均利用者数〕であります。

各保育所や特養には、最低基準及び配置基準が法令等によって定められ、遵守するのは当然であります。しかし、保育所の正規・パート保育士等々の要員配置は、最低基準で決められております。特養あおやまについては、ある程度派遣人材に依存していることも人材難の現況では仕方がないことですか、安易に派遣人材に頼るだけでなく、直接雇用とのバランス及び当会との直接雇用移行へ促すことも肝要です。総務省は今年4月1日現在の人口推計を発表したところによると総人口に占める子どもの割合は11.9%で、1975年から47年連続で低下しています。今後の人口の近未来像を考慮した折には、保育士人材等々も含めて政府は、半世紀も少子化を食い止められなかった猛省に立ち、海外の方々がJapan Dreamを実現できる、差別のない我が国を目指さなければ認知症大国を克服したり、経済の現状維持、ましてや成長などはできません。

また、労働集約型事業では、雇用に係る効率運営を施設ごとの部分最適ではなく全体最適を心掛けていく必要があると考えております。我々国民も年金暮らしに夢見るのではなく、健康である限り、日々働くことも大切であります。

四年度末の財務諸表については、当法人全体で、収入は、ほぼ（昨年度940,243千円→本年度940,414千円）昨年度並みで、支出は2.2%減（昨年度848,238千円→本年度830,018千円）になっており、各施設設備の借入金の元利返済合計額が61百万円となっております。

また、各種積立金合計額は、288百万円で、前年同期より7.4%増となっており、手持ち現預金も299百万円で、手持ちの現金・預金・積立金の計は、395百万円です。当期資金収支差額は299百万円となっております。

また、苦情処理委員会も開催し、介護士等や保育関係職員の施設内外等の研修会は、コロナ感染予防並びに介護・保育専門的サービス、感染症を含むリスク管理等の研修を行い、職員の習熟をはかって

おります。

### Ⅲ. 終わりに

我が国の行政機構は前例主義にとらわれ、発想の転換がなかなかできないで国民・市民は大変迷惑しております。新型コロナ対策の予算を出し惜しみすれば、国民の命も失われ、もちろん経済も長期に渡り、低迷し、社会保障の財源がなくなり、今よりももっと格差を生み、国民が迷惑すると思います。

こうした難しいコロナ ウイルスとの戦争には、「思考の三原則」に立ち返ることが肝要だと思っております。

**第一 目先に捉われず長い目で見ると**

**第二 一面的に見ないで多面的 全面的に観察する**

**第三 枝葉末節にこだわることなく根本的に考察する**

我々として、新型コロナ ウイルス感染症の問題は、もちろん阿鼻叫喚でもなく、自然な流れに逆らわず、流れに乗って流れていき、美空ひばりが謡う「川の流れるように」と、テレサ・テンが唄う「時の流れに身をまかせ」の歌詞を合わせると「川の流れに身をまかせ」が人間の本質であり、何人も山あり、谷ありの重荷を背負うものだと思っており、V字回復は容易なことではないが、「After コロナ」だけでなく、「With コロナ」の世界も意識せざるを得ない状況の今は我慢し、乗り越えるときだと思っております。

以上